

## 8月の富士山から

富士山の登り方はいろいろ挙げられると思うが、ぼく的には「吉田口登山道」を馬返しから登ることをお勧めしたい。浅間神社から歩き始める元気があったら、なお結構。1日目は5合目佐藤小屋で1泊、翌朝3時に小屋を出て山頂をめざす。3時小屋出発では、山頂でご来光を迎えることはできないが、渋滞に巻き込まれることなく富士登山を楽しめる。吉田口山頂に立ち、ひと休みしたらお鉢巡りをスタート。原則、時計回りだ。3,776mの剣ヶ峰で記念撮影を済ませたら下山。2日目も佐藤小屋まで下つてもう1泊、これがぼくの勧める富士登山3デーズプランだ。1泊2日の計画だと歩くペースによっては、タイムオーバーでお鉢巡りを断念しなければならない場面も出てくる。3日目、佐藤小屋でゆっくり朝食を済ませたら、吉田口登山道を馬返しへとのおんびり下る。時間のない人はスバルライン5合目にむかえばいい、小屋から40分足らずだ。

この8月の富士登山も3デーズプラン、多くの登山者が山頂でご来光主義だから、スバルライン5合目から山頂にむかい、8合目前後の小屋はチョー満員になるが、吉田口登山道5合目にある佐藤小屋はメインストリートからはずれていることもあって、チョー満員にならないところがいい。

それにしても外国人登山者が急増した、トレイルランナーも目立つ。それで気づいたことが2つある。1つは軽装、もう1つはスタート時間がバラバラだということ。

ツェルマットから登山電車に乗ってローテンボーデンで降りる。足の下にはリッフェルゼーが逆さまッターホルンを映している。マッターホルンに登るならいざ知らず、リッフェルゼーからリッフェルアルプまでダウンヒルのハイキングなら軽装で問題ない。欧米の人たちは、そんな感覚で日本の山を楽しもうとしているのではないか。もちろん富士山はマッターホルンのようにテクニカルな山ではない。しかし、ヨーロッパのハイキングコースに比べればずっとハードで、分類すればハイキングというより登山に属する。天気の急変などリスクも大きい。雨具や防寒着はザックに入れておくべきだ。

6月下旬にスイス、7月にブルガリアに行ったが、あちらは緯度が高いので夜の9時、10時まで明るい。ぼくらが3時過ぎになって下山を始める頃、登ってくるグループがいる。夜10時まで明るいんだから、非常識な行動とはいえない。ぼくらが4時過ぎに佐藤小屋に着いたとき、若い女性が休憩していた。聞けば1人、ニューヨークから来たという。佐藤小屋で泊まるんだと思っていたら、きょうは8合目の小屋を予約してあるのだそうだ。「だったら、早く行かないと日が暮れるよ」とアドバイスしたのだが、分かってんだか分かってないんだか、分からなかった。

悪貨は良貨を駆逐するというが、軽装で時間お構いなしという登山者が増加していきそうな、悪い予感がする。